

10/5

マスコミさいたま支局長会との懇談会 県内生協の取り組みをアピール



幹事社を代表して毎日新聞社
大坪支局長のあいさつ

県内生協の取り組みや活動についてもっと知りたいと、毎年懇談会を開催しています。さいたま支局長会7社、埼玉県生協連・会員生協から9生協(連)あわせて31人が参加し、食の安全・安心、消費者、環境、医療・介護・福祉の問題等について和やかに懇談しました。

7/31

第26回埼玉県原爆死没者慰霊式 核兵器廃絶と平和への誓いあらたに



核兵器の廃絶を願い、しらせが主催・4団体の協力でさいたま市別所沼公園内「慰霊の碑」前で開催されました。伊藤埼玉生協連会長は「昨年の核拡散防止条約再検討会議の議決にもとづいて核兵器禁止条約の締結を求める運動が展開され、今、核兵器を廃絶できるかできないかの重大な岐路に立っています。引き続き、最大限の取り組みを進めていきます。」とあいさつしました。

10/13

写真ニュース

2011 Autumn NO.40



発行:埼玉県生活協同組合連合会
〒330-0064
さいたま市浦和区岸町7-11-5
TEL:048-844-8971
URL: http://saitama-kenren-coop.jp

JAとの協同組合間提携:平成23年度埼玉県産米交流会「体験稲刈り」 たわわに実った黄金色の稲穂、 秋空の中、家族で楽しく稲刈り体験



生産者・消費者の交流を目的に今回で13回目となる稲刈りに25家族89人が参加しました。会場の「体験圃場」(久喜市)で、参加者は、鎌の使い方の説明を受けた後、各家族毎に分かれ稲刈りを行いました。体験後は、県産米のおにぎりや県産野菜がたくさん入ったみそ汁等の試食、バケツ稲の脱穀方法や籾殻取りの説明と春から育てたバケツ稲の栽培体験を模造紙や紙芝居風にまとめた発表がありました。

9/29

生協ネットワーク協議会第2回協議会 米粉の学習と調理実習から 食料自給率を考えました



37人参加

学習会では、はじめに米の放射性物質の検査等の仕組み、次に、米粉の特徴、利用拡大の推進の理由、米粉用米の市場規模の推移等の説明がありました。「米粉は、アミノ酸バランスに優れ低吸油でさっぱりヘルシーであること、利用することで食料自給率も向上すること」等を学びました。その後、米粉を使用したチヂミやクリームシチュー等を調理し各生協のお薦め商品と共に試食しました。

8/30

埼玉消費者被害をなくす会 消費者力アップ学習会 進化する悪質商法への対処法を 学びました



30人参加

「私はもう騙されない!その自信が落とし穴!」をテーマに、消費生活相談員の山下則子さんを講師に学習しました。契約は口頭でも成立すること、「無料・キャンペーン」等の誘い文句や、家に入り込むための口実、事例からの対処法、悪質商法に遇わないための対処法や遇ってしまった時のクーリング・オフについて説明がありました。



第47回埼玉県消費者大会 平和で安心してらせる 共生社会をめざして



「高めよう、消費者市民力! 平和で安心してらせる共生社会をつくりましょう」を大会スローガンに26消費者団体による実行委員会で開催し、約900人が参加しました。オープニングでは「福島県双葉町婦人会」の首長による相馬流れ山踊りが披露されました。来賓として上田清司埼玉県知事のあいさつ、記念講演では「この時代だから、伝えたいこと」と題し、「日本は二度、原爆を投下された大きな犠牲を払いました。原発事故も2回起きなければ、その危険に気付かない国民なのか」と訴えました。午後の5つの分科会には517人が参加し、テーマごとに学習・交流しました。

記念講演される栗川敬也さん
能登川さん、栗川敬也さん

さいたまコープ



おかずコース献立例

「コープデリの夕食宅配」がスタートしました
10月3日より、さいたま市の一部と蕨市、戸田市、川口市で、月曜から金曜までの週5日間、夕食宅配をスタートしました。管理栄養士が5日間の栄養バランスを考え、カロリー・塩分をしっかり管理したおかず5品にはごはん付きの「お弁当コース」と、おかず6品の「おかずコース」の2コースをご用意し、旬の食材で家庭の味、手作りの味を追求したバラエティー豊富な日替わり献立でおいしさをお届けしています。

生協パルシステム埼玉

学習会「放射性物質による食品汚染への 対応について」を開催

放射性物質による食品汚染についてのパルシステムの対応を説明し、不安や疑問に答えるための学習会を9月26日にふじみ野産業文化センターで、9月30日に浦和コミュニティセンターで開催し、それぞれ37名、58名の組合員が参加しました。講師のパルシステム連合会商品コミュニケーション部の三原史世さんは、まず、放射性物質の生物への影響、食品汚染の状況を解説しました。



生活クラブ生協



9月19日、2つの脱原発アクションに参加!

脱原発アクションに取り組んでいます。その一環として、9月19日に開催された2つの集会に参加しました。午前中に行われた「ストップ再処理2011脱原発宣言」集会には生活クラブ・埼玉からは42名が参加。消費材の生産者、高橋徳治商店(宮城県)の高橋英雄社長の「被災地では自殺者が絶えず、今も多くの人が疎離に苦しんでいます」との話し、会場はシーンとなりました。午後には、6万人が集結した「さようなら原発1000万人アクション」にも参加し、明治公園から新宿駅までパレードしました。

医療生協さいたま

双葉町のみなさんを応援

9月6日、旧駒西高校(加須市)に避難されている福島県双葉町のみなさんを対象にした「放射線が人体に及ぼす影響について」の学習会が行われ、講師を医療生協さいたま埼玉協同病院副院長の雪田慎二医師が担当しました。質疑で、参加者からは、さまざまな不安を抱えていること、双葉町に帰りたいという思いなどが伝わってきました。また毎週、食事支援ボランティアを継続しているさいたまコープさんより、飲み込みが困難な方の献立作成に協力してほしいと依頼があり、医療生協さいたまの管理栄養士が献立を提供することになりました。



豊かで多彩な活動が広がっています

コープネット事業連合

仮設住宅で「ふれあい喫茶」を開催

10月3日、宮城県東松島市の仮設住宅「グリーンタウンやもと」の集会所で「ふれあい喫茶」を開催しました。座敷のテーブルにお菓子やコーヒー、紅茶、ジュースなどを提供し、約70名の住民の方々に談笑を楽しんでいただきました。時折、生協職員も話の輪に入り、現在の不自由なことや不安などをお聞きしました。今回はコープネットと会員生協の職員など6名がボランティアとして参加し、現地のみやぎ生協の職員や仮設住宅の住民の方々と協力して運営しました。「ふれあい喫茶」は月2回、来年3月まで続ける予定です。



子どものその保育生協



「明日もまたやりたい」運動会

10月2日に運動会を開きました。子どもとその子どもたちは、毎日庭で追いかけっこをしたり、散歩でバツを追いかけて、土手の登り降りをしてあそんでいます。そんなあそびの延長線上にある運動会なので、やる気は満々ですが、緊張することもなく普段通りのびのびとやっていました。小さい組は大きい組のやるりりやソーラン節をみて憧れの気持ちを持って、真剣に見つめていました。運動会が終わって、子どもたちは「明日も運動会またやりたい」と話していました。

十文字学園生協

Peace Now!!広島2011に参加

広島で行われた平和祈念式典に参加した学生は「子どもの平和への誓いに鳥肌がたちました。また、子どもたちの想いを実現させるのは私たちの世代(大学生たち)だと思つた、私たちに訴えかけているように、その言葉の一つひとつがとても重く、しかし希望につながるものであると思つました。」と報告しています。全国大学生協連主催のピースナウ広島・長崎・沖縄に参加した4人の生協学生委員は、学んだことの発表を学園祭(桐華祭 10/22~23)の平和展で行っています。



東都生協



世界平和に向け第8回平和のつどいを開催

第8回東都生協平和のつどいを開催(8月19日、調布市グリーンホール)。当日は悪天候にもかかわらず、約500人が参加しました。今回は、東日本大震災に関する報告、被災証言と編み物贈呈、戦場カメラマン・渡部陽一氏の講演の3部で構成。会場ロビーには戦争の悲惨さを伝えるパネル、地雷のレプリカなどを展示し、みんなであらためて平和の大切さを考える一日となりました。